

大在家八雲社の歩み

社殿	昭和10年7月14日
大神輿	昭和10年7月14日
狛犬	昭和31年12月12日
中神輿	昭和35年7月1日
小神輿	昭和35年7月1日
鳥居	昭和62年7月

不動様	文政11年
天神様	明治25年2月15日
御稻荷様	明治28年3月

大在家 八雲社

◆ 名 称 宗教法人 大在家八雲社

◆ 歴 史

江戸時代中頃の天保11年(1840年)に村の代表が京都に赴き八坂神社(祇園社)に御分身を勧請し、社を建立(天保12年)したところ村の疫病が退散した。慶応2年(1866年)には囃子連を結成し、神輿も修理して無病息災を願い、村内渡御が行われました。これが現在も続けられている、「牛頭天王祭」です。

昭和11年に神輿(現在の大神輿)が新調され、平成30年、25年ぶりに大神輿を修理いたしました。

昭和13年(1938年)谷田村大字太田窪字大在家(現在の太田窪1・2・3丁目)の耕地整理を記念して、現在の社殿が建立されました。

そして、今に引き継がれています。

◆ 主 神 牛頭天王(ごずてんのう)

＝素戔嗚尊(スサノヲニミコト)

【吉凶方位すべてを支配する神】

◆ 合 祀 不動明王(成田山)：文政11年(1828年)

稻荷大明神(京都伏見稻荷)：明治26年

天満宮(菅原道真公)：明治25年

地域の皆様の守り神として次世代にも引き継いでいきたいと考えております。今後も多くの皆様のご協力をお願いいたします。

平安京の祇園社の祭神であるところから祇園天神とも称され、平安時代から行疫神として崇め信じられてきた

祇園社附近はもと八坂郷と称していた。この伝承にそのまま従うと「日本における神仏習合以前に、朝鮮半島ですでに日本神話のスサノオが信仰されており、その信仰をもちこんだ渡来人が住みついた後になってから牛頭天王と習合した」ということになるが、川村湊や真弓常忠は「朝鮮半島より渡来した人々が住みついて牛頭天王を祀ったが、その後、日本神話のスサノオと習合した」と解釈している

日本仏教では、薬師如来の垂迹とされた。牛頭天王に対する神仏習合の信仰を祇園信仰といい、中世までには日本全国に広まり、悪疫退散・水難鎮護の神として「祇園祭」「天王祭」「津島祭」などと称する祭礼が各地で盛んに催されるようになった。

＝牛頭天王（ごずてんのう）＝

日本における神仏習合の神。釈迦の生誕地に因む祇園精舎の守護神とされた。蘇民将来説話の武塔天神と同一視され薬師如来の垂迹であるとともにスサノオの本地ともされた。京都東山祇園や播磨国広峰山に鎮座して祇園信仰の神（祇園神）ともされ現在の八坂神社にあたる感神院祇園社から勧請されて全国の祇園社、天王社で祀られた。また陰陽道では天道神と同一視された

牛頭天王は、京都の感神院祇園社（現八坂神社）の祭神である。

『祇園牛頭天王御縁起』によれば、本地仏は東方浄瑠璃世界（東方の浄土）の教主薬師如来であるが、かれは12の大願を発し、須彌山中腹にある「豊饒国」（日本のことか）の武答天王の一人息子として垂迹し、姿をあらわした。